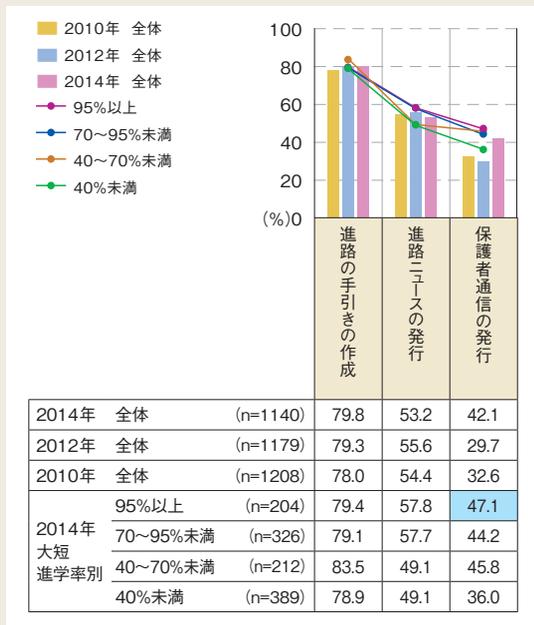


## 確実に生徒に届き、活用される ICTによる進路情報提供事例

進学・就職情報、在校生や卒業生の情報など、多くの情報が集まる進路指導部。膨大な情報をどのように発信すれば、生徒や保護者に有益に活用されるでしょうか。これまでとはまったく違う発想で情報発信を始めたICT活用先進校2校の例をご紹介します。

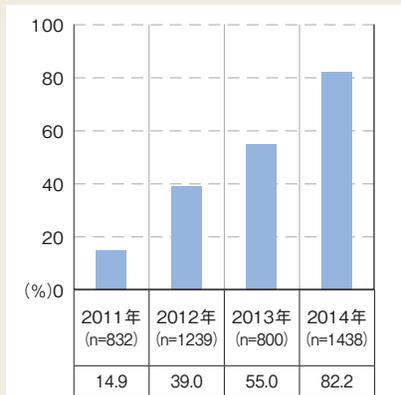
取材・文／永井ミカ

図1 現在実施している進路指導の取り組み<抜粋> (全体/複数回答)



※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示  
 ※小社「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」より  
 (調査時期：2014年10月 調査対象：全国の全日制高校の進路指導主事)

図2 高校生のスマートフォン所有率 (全体/単一回答)



※小社「高校生価値意識調査」より  
 (調査時期：2014年4月 調査対象：マクロミルモニター会員  
 2014年3月時点の高校生のうち進学検討者)

膨大な進路情報  
どう発信するかが課題

進路指導関係の情報提供は、各高校で生徒や保護者へどのようなかたちで行われているのだろうか。小社調査によると、情報提供の取り組みとして「進路の手引きの作成」(実施率80%)、「進路ニュースの発行」(同53%)、「保護者通信の発行」(同42%)などが、比較的広く行われていることがわかっている(図1)。

一方でこうして発信された情報が適切に活用できているかについては、多くの先生が不安を感じていることなのではないだろうか。進路に関する情報は、学校内情報(報告書類、調査物など)から外部リソース情報まで、非常に膨大だ。ここから

取捨選択し、全体に向けて二重提供するだけでは、なかなか個々の生徒に必要な最適化された情報が届かない。その結果、進路選択の視野や考え方が具体的に広がっていない、個々の進路選択に応じて自主的に動くことができない生徒も出てくると考えられる。膨大な情報を抱えているがゆえの情報不足という事態に陥っている学校もあるのではないだろうか。

進路部に入った情報、進路部に蓄積されている情報を、どのように効果的に発信するか。特に進路部と担任団との情報量の格差を埋め、多忙なか、進路部から担任団へ、担任団から生徒へ、もれなく、タイムリーにどう提供できるかが課題となっている。

デジタルネイティブの生徒に  
情報を伝える

そんななか紹介する2つの事例は、ICTを活用した先進事例である。小社調査によると、高校生のスマートフォン所有率は82%(図2)。SNSの利用率も高く、デジタルネイティブの今の生徒たちにとって、紙による情報提供だけでは伝わりにくくなっているのも事実。また、保護者も家庭内PCやスマートフォンでの情報収集に長けている。

ICTの学校内活用に関しては温度差があり、特にSNSについては賛否があるものの、現実の生徒たちの情報世界の進み方に学校としてどう対応し、学校自らも活用しているか。ICT活用のメリット・デメリットを見極めながら、情報提供の方法を試行錯誤している具体例を紹介する。

# 「LINE」アプリケーションのネットワークを活用し 進路情報をもれなくタイムリーに発信

## 高知中央高校（高知・私立）

一人ひとりの長所を伸ばす教育を実施している私立高知中央高校。看護学科と普通科があり、普通科にはエンターテインメントコースなどを設置。2016年度からはあきんど商人コース、フードビジネスコース、国立進学コース、人間力アップコースの4コースも新設される。

### デジタルに力を入れると同時に リアルな教育も大切に

同校で「LINE」アプリケーションの活用が始まったのは2012年。理事長の発案で、まずは各クラスに担任と生徒によるグループを作った。「最初は安全に活用できるのか不安でした」と進路企画部の福島健一先生。しかし、災害情報を共有したり授業変更や持ち物の連絡をするなど、連絡業務が急激に効率化された。「とくに『既読』機能は便利。もちろん重要な内容は返信を求めますし、直接連絡もしますが、簡単な連絡なら伝わったことがわかればよしとしています」と福島先生は言う。「LINE」への参加は強制で

はなく、クラスに一人二人、参加しない生徒がいる場合もある。その時は電話連絡が基本だ。

その後、部活動や教員間の連絡用など徐々にグループを増やしていった。また授業でも調べ学習などにスマートフォンを使う取り組みも始めた。情報リテラシーやモラルについては、NTTドコモなどの企業を招いて授業をしてもらう。さらに、校内に情報センターを設置し、情報委員の教員が各グループの一員となり「LINE」内をチェック。一方で、デジタルに偏ることのないよう体験授業などリアルなコミュニケーションの機会を充実させるといったことにも、気を配っている。

現在は、こうして築いた校内ネットワークを進路情報の発信にも使っている。「LINE」は進路情報を確実にもれなくタイムリーに生徒のもとに届けるツールとして適しているのだという。例えば、ある大学からオープンキャンパスの案内チラシが届いたら、進路企画部の担当者が該当する学年団の先生に画像付きで情報を流

し、先生は生徒に流す。生徒はそれを見て、必要ならすぐに進路室に現物をとりにいくといった方法だ。

「日常からさまざまな進路情報に触れることで、生徒の進路意識が高まっている」と言うのは進路企画部長の角田篤敏先生。こうした情報が3年生に頻繁に発信されるのを感じることで、低学年の生徒は「進路実現」に向けた全体的な流れを把握できる。気になる情報についてはクラスメートと話題にしたり、部活などの先輩に聞いたりされている。また、卒業生と在校生がつながるといふメリットも生まれ、先輩が気軽に在籍校の情報などを教えてくれるそうだ。

教員も、多くのグループに所属することで、可視化されるほかの学年や分掌の動きを把握できる。「結果的に学校全体に一体感が生まれました。今年の3年生は明らかに進路に関する動きが早まっています」と角田先生。生徒から「LINE」で進路相談を受け、その後、対面の面談につながることもあるという。

### 進路企画室から 担任への情報発信例



右から  
進路企画部 部長  
角田篤敏先生  
進路企画部  
福島健一先生

#### School Data

1963年創立／普通科・看護科(5年) 生徒数1128人(男子408人・女子720人)／進路状況(2014年度実績) 大学57人、専各68人、就職36人、その他2人

「デメリットがないとは言いません。しかし、前に進むためにはまずは取り入れないと」と福島先生。スマートフォンの授業中の扱いや使用時間など、マナーも年々向上しているそうだ。生徒の意識の変化を感じることで、先生たちも活用の意義を実感できている。

# 校内クラウドに進路指導室コーナーを開設 進路に関する資料がどこからでも閲覧可能に

## 三重総合高校（大分・県立）

2006年、普通科高校、農業高校、工業高校、商業高校の4校を統合して誕生したのが大分県立三重総合高校。大分県で初めての総合選択制高校で、普通科、生物環境科、メディア科学科を設置している。メディア科学科を中心にICT教育を推進。反転授業なども行う先進校として県内でも注目される存在だ。

### 紙で残されている書類をPDFにして保存・公開

大分県立の高校には、県が設置した大分教育ネットワークからパブリッククラウド（Google Apps）を利用する校務支援システムがある。「三重総合クラウド」は、これまではメディア科学科の生徒を中心に授業で活用されてきた。具体的にはクラウド内に授業の教材などを置き、生徒は支給されているiPadを使い専用IDを使ってアクセスする。

このクラウドの中に昨年開設されたのが進路指導室からの情報提供コーナー「三総魂」。中心となって運営している菅

淳司先生は開設の理由をこう語る。「進路指導室は卒業生による受験報告書の

ような生きた情報の宝庫。しかし、部屋をたずねてわざわざファイルから探し出すという手間がかかるため、十分な情報活用がされていませんでした」。そこで、受験報告書や教員による企業訪問報告書など紙で残されていたこれまでの報告書類をPDFファイルで保存し、生徒が家庭のPCやスマホで取り出せるようにしたのだ。「報告書も受験が決まれば生徒は見に来ますが、その前の選ぶ段階ではチェックしません。なるべく早いうちに、家庭で気軽に報告書を見ながら、生徒と保護者が将来の進路について話しあう機会をもつてくれたら」と菅先生は語る。

同校は進路多様校。多くの情報を整理して的確に生徒に発信しきれないことが、生徒の安易な進路選択につながっていたかもしれないという反省点もあるという。「三総魂」では、高校の教員向けに大学や専門学校が開催する説明会からも有益な情報があれば生徒に発信すること

にしている。なお、さまざまな書類は、PDFで保存すれば端末を選ばず見ることができ、色、文字の大きさ、アンダーラインなど、手書きした人の工夫もそのまま残る。情報を保存するにも、スキャナで読み込むだけなので簡単に導入のハードルも低い。

ちなみに菅先生は、教員間のグループウェアも整備した。連絡事項はフォーマット内に書き込むことで、職員朝礼の時間が短縮。不在の教員への連絡漏れもなくなった。教員間での情報のやりとりに漏れがないということは、生徒も平等に情報を受け取ることに繋がる。会議時間等の

短縮により、教員と生徒のリアルコミュニケーションの時間は増える。

「校内の情報網を整備することで、1年生から様々な情報を当たり前に活用できるリテラシーを身につけさせたい。また、私たちからも校外に情報を発信し、地域の他の学校や企業からも情報を受け取り、積極的にコミュニケーションを高めることで、地域社会に貢献できる人材を育てていきたいと考えています」（菅先生）

進路指導部 菅 淳司先生



#### School Data

2006年創立／普通科・生物環境科・メディア科学科 生徒数442人（男子197人・女子245人）／進路状況（2014年度実績） 大学54人、短大14人、専各71人、就職68人、その他0人

### 「三総魂」の使い方

ダウンロード可

三総魂クラウドに「三総魂」コーナーを開設し、資料をアップロードして公開しています。

検索機能で「三総魂」の検索が可能です。

検索結果一覧画面が表示されます。

検索結果詳細画面が表示されます。

### 「三総魂」トップページ

大分県立三重総合高等学校

進路指導室「三総魂」

三総魂

検索

最新情報

お知らせ

お問い合わせ